

今日も「一丁あがり」

第34話

農家さんの協力に礼を尽くす！の巻



皆さん、こんにちは！ 10年ぶりに牛乳を飲んだロブストス高垣でございます。甘くてまろやかで幸せな気分になりました♪

約6年前、僕が手がけたネギ収穫機の補強条件が、いまでは群馬・埼玉の新車販売時にロブストスでカスタマイズするのが標準になりました。この開発に一番最初に手を挙げて協力してくれた農家さんは、自ら追加で溶接をしたり、実に親身にサポートしてくれました。ほかの部品製作の相談も受けていましたが、当時の僕は鉄工所のアルバイトで稼いだお金で、ロブストスの仕事を回し



写真1：イチゴの育苗用ポット



写真2：ポット形状に合わせて、穴あけ器の先端部分を樹脂素材で試作



写真3：試しに使ってみた結果、先端部分の形状はこちらに変更した



写真4：持ち手は農家さんが木材でDIY。こうやって事前に穴をあけておけば、定植作業がスムーズに！



穴あけ器であけた穴



穴にイチゴ苗がピッタリ！

ている状況。経験も試作に当てるお金もなく、要望に応えられないまま、次第に訪問しづらくなってしまいました。現場で「メーカーは農家の意見を聞くだけ聞いて返礼一つしない。気が付けば、指摘した部分が改良されて商品化されている」というグチを聞くたびに、その方のことを思い出しました。ご自身の収穫機はツギハギの仕上がりなのに、後から購入した近隣の農家さんの収穫機はクオリティーが高くなっていく様子を複雑な気持ちで見えていたのではなにか。つい先日、意を決して数年ぶりに訪ねたところ、笑顔で迎えてく

れました。改めて感謝を伝え、特注のネギ定植用台車を寄贈させてもらうことにしました。私たちメーカー側は助言をくださった農家さんに一杯の礼を尽くさなければいけません。こうした紆余曲折も僕のカスタマイズのリアルな一面です。

ネギにあつてイチゴにない道具

今月の案件は、「定植前にポット苗と同じ形状の穴をあけたい」という足利のイチゴ農家さんから。イチゴは手で穴を掘りながら定植する方も多いのですが、事前に畝に穴をあけておけば定植作業が楽になります。



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

すよね。ネギの場合は、定植用穴あけ器が製品化されていますが、イチゴは育苗用ポットの形状が種々様々で製品化が難しいのか、皆さん自分で製作されているのが現状です。ということで、ポットの形状とピッチリサイズに、軽くて土離れの良い樹脂素材を切削加工。試しに使ってみると、もっと土に刺さりやすく、穴の肩を崩れないようにしたいという要望が出たので、形状を改良することに。持ち手は農家さんが木材をDIYして一丁あがり♪

昨年まで20人がかりで4時間半かかって定植作業が、今年は3時間ほどで終了しようです。植え付け間隔がズレないので、「早く、正確な」植え付け作業ができました。僕も定植作業に参加して、作業効率化のアイデアが次々と浮かんできました。駆け出しの頃の感謝を忘れずとで、今月も一丁あがり♪